

さいたま市誕生10周年・新しい夢とビジョンをみなさまとともに



プロフィール 昭和37年3月生まれ。日本大学法学部卒業後、(財)松下政経塾入塾(7期生)。埼玉県議会議員(南6区)2期を経て、平成21年5月さいたま市長に当選。著書は、「2010年産ケ関物語」(共著/二期出版)「繁盛の法則」(共著/TBSフリアニカ)「犯罪のない安全なまちをつくろう」(共著/埼玉新聞社)。好きな言葉は「素志貫徹」(成功の要諦は、成功するまで続けることにある)。現場から国を変える首長の会、共栄大学客員教授他。

しあわせ倍増プラン82%が順調、行財政改革推進プランは83%が順調、行革298億円の財源創出

今年、さいたま市が誕生して10周年の記念すべき年です。21世紀が幕を開けた平成13年(2001年)の5月1日に、旧浦和市、大宮市、与野市が合併し、さいたま市が誕生しました。その後平成15年に政令指定都市に、同17年に旧岩槻市と合併し、今や人口123万人の全国9番目の大都市に発展いたしました。この10年間の基礎を築いてこられた多くの市民の皆さん、そして関係者の方々に心から感謝申し上げます。これを記念して市のキャッチフレーズを募集したところ、全国からの公募と投票及び選考委員会によって、「のびのびシティ さいたま市」(投票第1位)が決定いたしました。のびのびシティには、市民がのびのびと(豊かに、元気に、健康寿命が長く延びるように)暮らせ、さいたま市がさらに成長・発展していく(のびる)意味が込められています。どうぞよろしくお祈りします。

さて、私が市長に就任し、約2年6か月が経ちました。先日、マニフェストをベースとした「しあわせ倍増プラン2009」及び「行財政改革推進プラン2010」の進捗状況が公表されました。しあわせ倍増プランの139の事業のうち、82%がおおむね順調に進み、行財政改革推進プランは、192の事業のうち83%が順調に推移しており、平成22年度の決算ベースで282億円の財源創出(歳入確保、歳出削減)目標に対し、298億円の財源創出を達成し、その結果プライマリーバランスの黒字を維持することができました。市民の皆さんのご協力に心から感謝しております。

しかしながら、今年度は東日本大震災の影響などもあり、平成24年度はさらに厳しい予算編成を余儀なくされています。10年前のさいたま市は65歳以上の割合が12.8%でしたが、現在は18.8%、10年後は約26%(推定)、さらに20年後は約30%(推定)と、急激に超高齢化が進んでまいります。今後も市民の皆さん、事業者の皆さんと行政が共に手を携え、しっかりと「絆」を結びながら、しあわせを実感できる都市をつくっていききたいと思います。

さいたま市10年のデータ

2001年→2011年		2001年→2011年		2001年→2011年	
■人口	114万人→123万人(7.9%増)	■市予算	3,255億円→4,409億円(35.5%増)	■保育所定員	8,231人→11,141人(38.6%増)
■65歳以上の高齢化率	12.8%→18.8%	■市税収入	1,826億円→2,170億円(18.8%増)	■下水道普及率	78.8%→87.9%(9.1%増)
■事業所数	41,021→43,066(5.0%増)	■市職員数	9,623人→8,991人(6.6%減)	■都市公園	447施設→880施設(96.8%増)
■従業者数	420,439人→500,855人(19.1%増)	■コミュニティセンター	13施設→21施設	■特別養護老人ホーム	1,093床→3,571床(3.3倍)

地域が主役、生活者が主役のまちづくり



徹底した現場主義 現場訪問 計516件



出版のおしらせ

「絆」をキーワードに、情報公開と市民参加を推し進め、目指すべきまちの姿を記した「さいたま市未来創造図～マイドリーム100年構想私案」(清水勇人著)を出版しました。ぜひお読みください。
■発行 埼玉新聞社
■定価 840円(税込)



清水勇人さいたま市長が、上田清司埼玉県知事、河村たかし名古屋市長、鈴木康友浜松市長、海老根靖典藤沢市長他とともに掲載された「Leader of Japan～ニッポンを地方から洗濯致し候」が出版されました。
■発行 フーガブックス
■定価 1,000円(税込)

FMナックファイブ(79.5MHz)で毎週土曜の朝7:20～8:00に堀江ゆかりさんと「ザ・フロンティアーズ」のパーソナリティを勤めています。毎回多彩なゲストをお迎えして話を聞いています。これまでのゲストは、吉武大地さん、山田香織さんなどさいたま観光大使のみなさんや、落語家の立川談慶さん、レーシングドライバー井出有治さん、銅版画家の山本容子さん、ミュージシャンのダイヤモンドユカイさんなど、さいたま市と縁のある方々です。ぜひお聞きください。

FMラジオ79.5(ナックファイブ)の「ザ・フロンティアーズ」にパーソナリティーで出演中!
[毎週土曜・朝7:40～8:00]
J:COMさいたまの「絆(きずな)チャンネル・勇人が行く」に出演 [年4回]

日本一身近で早い行政を目指して

清水市政の2年間の主な実績・進捗

「さいたま市役所は“市民のしあわせコーディネーター”」

「保育所、ナーサリー等の定員増2033人(+H23年度1047人予定)」

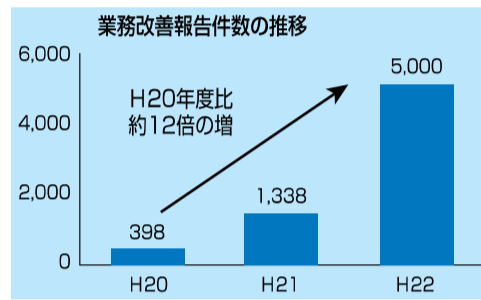
「太陽光発電補助件数1171件(+H23年度1540件予定)」、「介護者相談の年中無休化」

「全国情報公開ランキング政令市最下位→4位」(県内1位)「職員業務改善件数5千件・1.2倍に!」



徹底した行財政改革

- ・市長の退職金50%カット、給与・期末手当10%カット
- ・行財政改革による財源創出額：平成22年度298億円(目標達成率106%—歳入79億円増、歳出218億円減)
- ・市職員の削減合計206名(H22年度)
- ・市長直轄「行財政改革推進本部」設置、民間人登用11名
- ・外郭団体改革プラン策定(4年間で22団体を17団体に統合、約15億円削減)
- ・職員の積極登用・庁内公募制度の導入
- ・公共施設マネジメント会議設置、公共施設マネジメント白書発行
- ・外郭団体への自動的な天下りの廃止
※「自動的な天下り」=市の推薦に基づき、市OBが外郭団体の役員へ就職すること
- ・さいたま市版事業仕分け(行財政改革公開審議—市民参加型)実施



高齢者・障害のある方への支援

- ・介護者の相談、癒しの場(地域包括支援センター)の年中無休化
- ・高齢者の買い物割引、特典などを設ける「シルバー元気応援ショップ制度」創設1011店舗(H23.9現在)
- ・配食サービス週4回から5回へ
- ・シルバーユニバーシティ学科の新設、定員増
- ・特別養護老人ホーム885床増床(H21-23年度)、老人福祉センター1か所増設(H24年度さらに1か所増設)
- ・障害児通園施設はるの園整備
- ・特別支援学校「さくらそう」整備、支援学級の増設

市民との協働

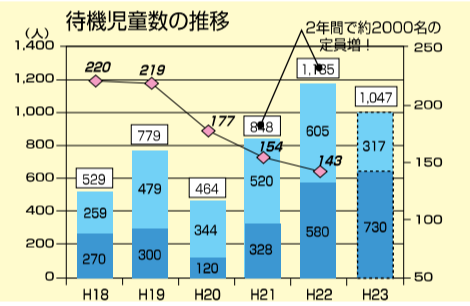
- ・市民活動を促進する「マッチングファンド制度」創設他
- ・12大学が連携する大学コンソーシアムさいたまの設立を支援し包括協定を締結

情報公開日本一:全国トップレベルに

- ・全国オンブズマン連絡協議会—情報公開ランキング最下位(指定都市中19位)から4位(県内1位)
- ・予算編成過程の公表(全国政令指定都市中ランキング3位)
- ・都市経営戦略会議の議事要録公開
- ・身近な道路(スマイルロード、暮らし道路)整備の要望状況、進捗状況等公開
- ・印刷物、イベント、工事などにコスト表記
- ・出前講座スタート

子ども・子育て支援

- ・子ども未来局新設
- ・放課後児童クラブ受け入れ可能数771名増・14か所増(H21-22年度)
- ・児童虐待をなくそう!児童相談所の強化(児童福祉士、児童心理士)増員
- ・子育て支援センター7か所増設(H21-23年度)
- ・小中学校12校、保育園33園の校庭、園庭の芝生化(H23年度)
- ・一日保育士、幼稚園教諭体験事業スタート延べ1554名が体験(H23.10)
- ・大宮駅西口に公立と民間の併設の大型保育園整備(定員255名)
- ・さいたまパパスクール開始、親の学習アドバイザー事業開始
- ・みらくる先生、プロスポーツ選手、アーティストなどによる事業を全小中学校で実施
- ・小中学校の耐震化前倒し(平成24年度完了予定)実施



スポーツのまちづくり

- ・市民・スポーツ文化局新設
- ・さいたまスポーツ振興まちづくり条例制定(政令指定都市全国初)
- ・さいたまスポーツコミッションの創設
- ・さいたま市スポーツ振興まちづくり計画策定
- ・多目的広場増設プロジェクトチーム、多目的広場8か所の設置

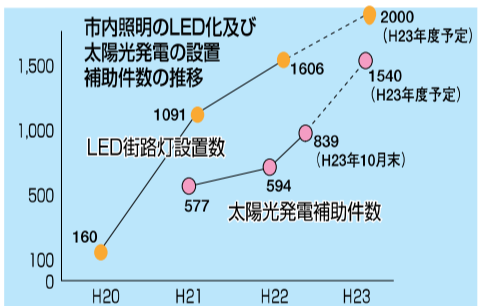


市民サービスの向上

- ・さいたまシティマラソンの拡充
- ・各10区役所にたらいまわしにしない「くらし応援室」、フロアアドバイザーの設置・充実
- ・コンビニエンスストアでの市税の収納開始、各種証明書の発行準備
- ・区長マニフェスト及び明るい区役所運動の推進
- ・区長への権限(人事)、防災担当など区役所へ44の窓口事務の移管

環境先進都市・くらしやすいまち

- ・学校防犯ボランティア1万2千人(1.5倍)
- ・電気自動車の普及促進、E-KIZUNAプロジェクト・「E-KIZUNAサミット・フォーラムさいたま」開催
- ・見沼田圃基本計画策定
- ・公園整備5か所増設等、みどり倍増プロジェクトの推進
- ・下水道普及率87.9%に(H22年度)
- ・身近な道路の整備(スマイルロード、暮らしの道路)
- ・浦和駅鉄道高架化事業—東西連絡仮設通路開通
- ・日進駅、指扇駅、岩槻駅の橋上化、駅のバリアフリー化の推進
- ・大宮駅周辺地域戦略ビジョン策定—大門町2丁目中地区へのNHK放送会館の誘致



徹底した現場主義

- ・現場訪問516か所(平成23年11月14日現在)、(現場訪問285か所、学校訪問101か所、タウンミーティング各区61回、職員車座集会69回)

●全国初「さいたまスポーツコミッション」を設立

スポーツの分野で新たな観光・交流人口の拡大を図るため、スポーツの全国大会、国際大会を誘致し、開催支援を専門的に展開する組織として、国内初となる「さいたまスポーツコミッション」を本年10月に設立しました。スポーツでさいたま市を元気にします。



●総合特区にチャレンジ!「次世代自動車・スマートエネルギー特区」

環境未来都市を目指して、「次世代自動車・スマートエネルギー特区」の指定申請をしました。特区は、太陽光発電などを取り入れた住宅が電力を融通しあうスマートハウス・コミュニティの整備。ガソリン、天然ガス、電気、水素などの自動車燃料を1か所に集めた複合ステーションの整備。

低炭素型の2人乗り可能なEV原付の開発・普及。審査の後、12月下旬ごろ特区指定の採否が公表されます。



誇り 絆プロジェクト

●政令指定都市全国初「ノーマライゼーション条例」を制定

政令市初「さいたま市誰もが共に暮らすための障害者の権利の擁護等に関する条例」(通称=ノーマライゼーション条例)が誕生。障害者権利条約に沿って「障害者」「差別」「虐待」等を定義し、差別と虐待を禁止し、その相談や調査の仕組みを設ける条例。100人委員会を設置し、市民が検討



●「どちゃれ」80校で実施予定

一昨年スタートしたさいたま土曜チャレンジスクール(通称どちゃれ)が今年度80校の小中高校での実施を予定しています。これは、土曜日に基礎学力の向上に役立てたいと小中学校の子どもたちが自主的に行う学習(補習・ものづくりなど)を地域の大人がサポートする場です。

